

3. 9ヶ月累計の経営成績、財務諸表等

【概況】

	9ヶ月累計	前年同期比	増減率	再編影響を除く 継続事業の増減率
売上高	32,637 億円	535 億円	1.7 %	5.4 %
営業利益	381 億円	459 億円		
経常利益	▲ 102 億円	741 億円		
当期純利益	▲ 177 億円	331 億円		

<売上高の前年同期比増減率>

	増減率	再編影響を除く 継続事業の増減率	再編影響額 ▲ 1,128億円 <主要な再編の内訳>
売上高計	1.7%	5.4%	・富士通コンサルティングのスペイン事業売却
ソフトウェア・サービス	0.5%	1.8%	・フラッシュメモリ事業の合併化
プラットフォーム	6.0%	6.0%	・化合物半導体事業の合併化
電子デバイス	7.2%	13.3%	・FDK(株)の外部資本との提携
その他 ▲ 3.3%		21.6%	・リース事業の外部資本との提携

注) セグメント別は外部顧客に対する売上高。

当年度の第3四半期末までの9ヶ月累計の売上高は3兆2,637億円となり、継続事業ベースでは前年同期比5.4%の増収となりました。中間期半ばから半導体や薄型ディスプレイパネルの製品市況の急速な悪化はあったものの、第3世代携帯電話基地局や新紙幣対応の金融端末装置のほか、デジタルAV機器向けシステムLSIや電子部品も9ヶ月累計では増収となりました。

営業利益は381億円となり前年同期の78億円の損失から459億円改善しました。売上が好調だった電子デバイスやプラットフォームの増収効果とコストダウンや費用効率化によるものです。

経常利益は102億円の損失となりましたが、前年同期比では741億円の改善です。退職給付積立不足償却額が138億円の費用減となったほか、金融収支や持分法による投資利益が改善しました。

当期純利益は177億円の損失となりましたが、前年同期比では331億円の改善でした。

・セグメント別営業利益

	9ヶ月累計	前年同期比
ソフトウェア・サービス	298 億円	▲ 67 億円
プラットフォーム	56 億円	262 億円
電子デバイス	349 億円	205 億円

ソフトウェア・サービスは海外子会社が好調であったものの、国内では採算性の悪化したプロジェクトに関する新規および追加の損失が発生したことなどにより前年同期比で67億円の減益となりました。

プラットフォームは第3世代携帯電話用基地局や金融端末装置の増収効果やパソコン、HDDのコストダウン効果などにより前年同期比で262億円の改善となりました。

電子デバイスは中間期半ばから半導体やPDP、LCDなどの市況が悪化したものの、9ヶ月累計では前半好調に推移したことにより、前年同期比で205億円の増益となりました。